

より良い生活のために

第一鹿屋中学校 三年 迫 哲平

僕のおばあちゃんは体が弱く、ベットから起きあがるので精一杯だった。だから僕のお母さんはよく、おばあちゃんの面倒を見に家に行っていた。外に出ることもできないおばあちゃんにはゴミ出しとかどうしてるんだろうと僕は疑問に思い聞いてみた。すると社会福祉協議会という聞いたこともない言葉が出てきた。詳しく聞くとそれは、安定し充足した

第一鹿屋中学校

生活をおくるためサポートしてくれる人たちの仕事らしい。その人たちは高齢者などの身の周りの生活に不自由を持っていて人たちのため、ゴミ出しなど色々な手助けをしてくれるらしい。今まで全く何も知らなかった。社会福祉協議会」という仕事はどれだけ大切か。そしてどれだけ普通の生活でのやくに立っているのかなどを知る事ができた。中学生になつてから部活や勉強でいそがしくなり、地域や学校のボランティアに参加することがで

きていなかっただけど地域の人たちが安定し、幸せな生活を送るためには少しでも必要があるのではないかと思っただ。そのため地域で見かけた人にはしっかりとあいさつをして地域の輪を広げ、少しおつても小さい子から高齢者まで幅広い人たちに暮らしやすい、過ごしやすい地域をつくってあげたらなと思っただ。

若い年代の人たちにはなかなか知られることはない「社会福祉協議会」という仕事。い

第一鹿屋中学校

ずれかは僕たちも歳をとり、閉めてくると思う。そのときに必要になってくるのが、町や地域の人たちの補助や社会福祉協議会の人たちなので今のうちに「知っておく」ことが大切になる。僕は作文をきっかけに「福祉」という言葉について調べたが、たぶんこの作文がなかったら知ることもなかっただと思う。だから少しでも多くの人に「社会福祉協議会」という仕事を知らせてもらい、安定し充足したより良い生活を送れるよう、自分ができるこ

とを少しずつでもしていけたらいいなと思う。

第一鹿屋中学校